

# 令和7年度 新潟県DX先進企業事例集

～企業成長のための一つのアプローチ「DXセレクション」～

-令和7年度DX経営による企業価値向上プロジェクト事業-



## 目次

- CASE 1 アサヒアレックスホールディングス株式会社
- CASE 2 株式会社カワイ精工
- CASE 3 株式会社三原田組
- CASE 4 株式会社堀内組
- CASE 5 三行合成樹脂株式会社





はじめに

## 企業成長に向けたアプローチの一つとして 「DXセレクション」への選定を目指す。

企業価値向上のためにDX認定の取得を行った企業が、更なる企業成長を目指すとき、DXセレクションへの選定を目指すことは有効な手段の一つです。本プログラムでは、DXセレクションへの選定に向けた先進的なDXの取組の創出を目的として、企業への支援を実施しました。

## DXセレクションに求められる 5つの柱の「望ましい方向性」と取組事例

DXセレクションへの選定に向けて企業がDXを推進する際には、デジタルガバナンス・コード3.0に示されている5つの柱における「望ましい方向性」に焦点を当てることが重要です。

### DX経営に求められる5つの柱

1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定
2. DX戦略の策定
3. DX戦略の推進
  - 3-1. 組織づくり
  - 3-2. デジタル人材の育成・確保
  - 3-3. ITシステム・サイバーセキュリティ
4. 成果指標の設定・DX戦略の見直し
5. ステークホルダーとの対話

引用)経済産業省(2024年9月19日)「デジタルガバナンス・コード3.0～DX経営による企業価値向上に向けて～」閲覧日2026年3月11日,

[https://www.meti.go.jp/policy/it\\_policy/investment/dgc/dgc3.0.pdf](https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/investment/dgc/dgc3.0.pdf)

## DXセレクションに資する 企業の創出に向けたプログラムの実施

DX認定申請の過程で、DX戦略を構築し、その後、DXセレクションに向けた1ヵ年計画策定、委員会型伴走支援を実施しました。

DX戦略策定

1ヵ年計画の策定

委員会型伴走支援

全体構想

1ヵ年計画

実行

### ☑DX戦略策定

DX認定制度の認定基準に沿った形式で、ビジョンと連動した「DX戦略」を構築します。

### ☑1ヵ年計画の策定

構築したDX戦略を確実な実行へと移すため、DXセレクションを見据えた具体的な1ヵ年のアクションプラン(1ヵ年計画)を策定します。

### ☑委員会型伴走支援

外部の専門家を交えた体制のもと、1ヵ年計画に基づいた第一歩となる具体的なプロジェクトを実行し、自走する組織への変革を推進します。

#### ※委員会型伴走支援とは？

DXを推進する企業の内部に、外部のITベンダー等を中心とした専門家を迎え入れる体制。

DX戦略に向けた委員会型の協議体を設けることで、「統合的」かつ「実行的」なDX推進を実現する仕組みです。

本プログラムでは、5社に対する支援を実施しました。

5つの柱に対して、すべての企業において「3-1. 組織づくり」に関する取組が最も重要な観点となりましたが、それ以外にも、「1. 経営ビジョン・ビジネスモデルの策定」、「2. DX戦略の策定」、「3-2. デジタル人材の育成・確保」などに関する取組が行われました。

これらの事例を、ぜひ自社の取組の参考としてご活用ください。

# DXは、人と人の心をつなぐための経営戦略

## — 社員が全員主役となった社内DXの実践事例

新潟市を拠点に、4,000棟以上の施工実績をもつ地域ビルダー。人口減少や少子高齢化、ニーズの多様化に対応し、持続的成長を遂げるためにDXに着手。単なる効率化の手段ではなく、「親派(しんぱ)づくり」をテーマに、社員全員を巻き込んだ社内ポータル構築コンテスト等を通じて、人と人のつながりを強化する組織風土の変革を推進した。

### Transformation Points / 課題と方針

#### 「親派づくり」のための新たな顧客関係管理(CRM)の構築

単なる顧客満足を超え、まるで親戚のような親しい関係を築く「親派づくり」を掲げた。これを実現するため、ツール・組織・仕組みの3つの観点から、全社を挙げた新たな顧客関係管理(CRM)の構築を目指す方針とした。 ※「親派づくり」とは、単なる顧客満足を超えた、まるで親戚のような親しい関係性を築くことです。

#### 楽しみながら学ぶ、全員参加型のデジタル定着

DX基盤構築には、社員のITスキル向上が不可欠だった。そこで、トップダウンの研修ではなく、部署対抗のコンテストを企画。社員が自ら工夫して競い合いながら、楽しく実践的にスキルを習得するアプローチを採用した。

### ビジョン

# 「住」関連事業を通じて地域に貢献。 DXで持続的な成長と価値創造を実現する。



### Microsoft365を活用した情報共有基盤の整備

### 全員参加型の部署別対抗戦

#### 取り組んだ内容について教えてください

全社を巻き込んだDX意識向上とリスクリングの一環として、「部署対抗 DXチャレンジ『社内ポータル構築コンテスト』」を企画・実施しました。ツールの導入にとどまらず、実践を通じてスキルを定着させることを目指しました。

#### ツール導入とコンテストの企画設計

全社員にMicrosoft365のアカウントを付与し、クラウド環境を活用した情報共有基盤の中核としてSharePointを整備しました。単にツールを入れて終わらせないため、伴走支援パートナーと協働し、全4回の委員会を通じてコンテストの実施仕様や審査基準を細かく設計しました。社内キックオフではコンテストの趣旨に加え、情報セキュリティリスクやデータ管理の重要性についても全社で共有し、安全にデジタルを活用する土台を構築しました。

#### 競い合いながら楽しく学ぶDX実践

部署別対抗で「自分たちの業務を便利にするポータルサイト」をテーマに企画構築しました。社員が日々の業務課題を振り返り、自ら工夫してサイトを作り上げることで、自然とデジタル活用スキルが定着する環境を実現しました。さらに、経営役員や外部審査員(金融機関やIT企業)による客観的な審査を行い、会長賞などの褒賞やインセンティブを設けたことで、単なる座学研修の枠を超え、社員が熱狂する全社的なムーブメントへと昇華させることができました。

### 事業戦略

全社を挙げた真の顧客関係管理(CRM)の構築を目指し、顧客・業務プロセス・経営データの統合・分析・可視化を進める。住宅やリフォームなど各事業で分断されていた情報を一元管理し、顧客のライフステージの変化を予測。最適なタイミングで提案を行うことで「生涯顧客化」を実現する。同時に、属人性を排除した業務の標準化により生産性と品質の向上を図る。

### 組織戦略

経営トップがDX総責任者として戦略を統括し、DX推進本部と各部門の推進者が連携する体制を構築。グループ全体でのデータ連携や情報共有を徹底するとともに、資格取得やスキルの管理など人事・育成制度のDXも進める。今回のコンテスト等の全員参加型施策を連動させることで、社員が楽しみながら自発的にデジタルスキルを習得・定着させる組織文化を醸成する。

## DXで「新派づくり」を実現する

全員参加のコンテストが、  
社内の一体感とDXの機運を高めた

### 自ら考え、競い合い、楽しみながら学ぶDX

コンテストの発表会では、拠点間をオンラインで繋ぎ、全社員が参加・投票する仕組みを取り入れました。初めて人前でプレゼンする社員も多く、一人ひとりが主役となることで、社内全体のDXへの意識が劇的に向上しました。

また、外部審査員(金融機関やIT企業)による評価や表彰式を実施したことで、単なるツール導入を超え、組織の一体感醸成に繋がりました。今後は「100億宣言」実現に向け、基幹システム「ANDPAD」を導入し、脱Excelとデータ一元化による真のCRM構築に挑戦します。



### Message

## DXは、人と人の心をつなぐ経営戦略

私たちが目指すのは、「親派づくりの輪」を広げることです。お客様、大工さん、社員、地域社会など、関わるすべての人と共感と信頼で結ばれる関係を築くため、DXを単なる効率化ではなく、心をつなぐ戦略として推進してまいります。



代表取締役会長  
石倉 茂雄 様



<https://asahi-alex-holdings.com/>



### ▶ アサヒアレックスホールディングス株式会社

#### 所在地

▶ 新潟県新潟市中央区美咲町1丁目9-48 アサヒアレックスビル

#### 業種

▶ 建設業

#### プロジェクト体制

- ▶ アサヒアレックスホールディングス株式会社
  - ・意思決定：加藤 様
  - ・社内調整：五嶋 様
- ▶ 株式会社BSNアイネット
  - ・研修設計：丸山 様
- ▶ 株式会社第四北越銀行
  - ・伴走支援者：皆川 様

#### DX戦略書



#### DX推進事例



#### DX戦略書

<https://ndx.jp/case-studies/68aeb6515c9f7f7bcf88a5f>

#### DX推進事例

<https://ndx.jp/case-studies/698e799368a3e30a97cfab2c>



### 事業統括者からのコメント

全社員を巻き込んだコンテスト形式でのDX推進は、経営層の強いコミットメントと現場の熱量が合致した素晴らしい事例です。「親派づくり」という独自の指針とDXを掛け合わせ、社員が楽しみながら自走し、基幹システムの定着へと向かう仕組みは、多くの企業の参考になります！

# 金型×ITで切り拓く、 次世代ものづくりDXプロジェクト

精密プラスチック金型設計からシステム開発までを手がける同社。金型業界が縮小し人手不足に直面する中、生き残るための手段としてDXに着手。自社の製造業としての現場経験とITベンダーとしての技術力を融合させ、事業シナジーによる新たなビジネスモデルの構築を推進した。

## Transformation Points / 課題と方針

### IT人材の育成と、属人化からの脱却

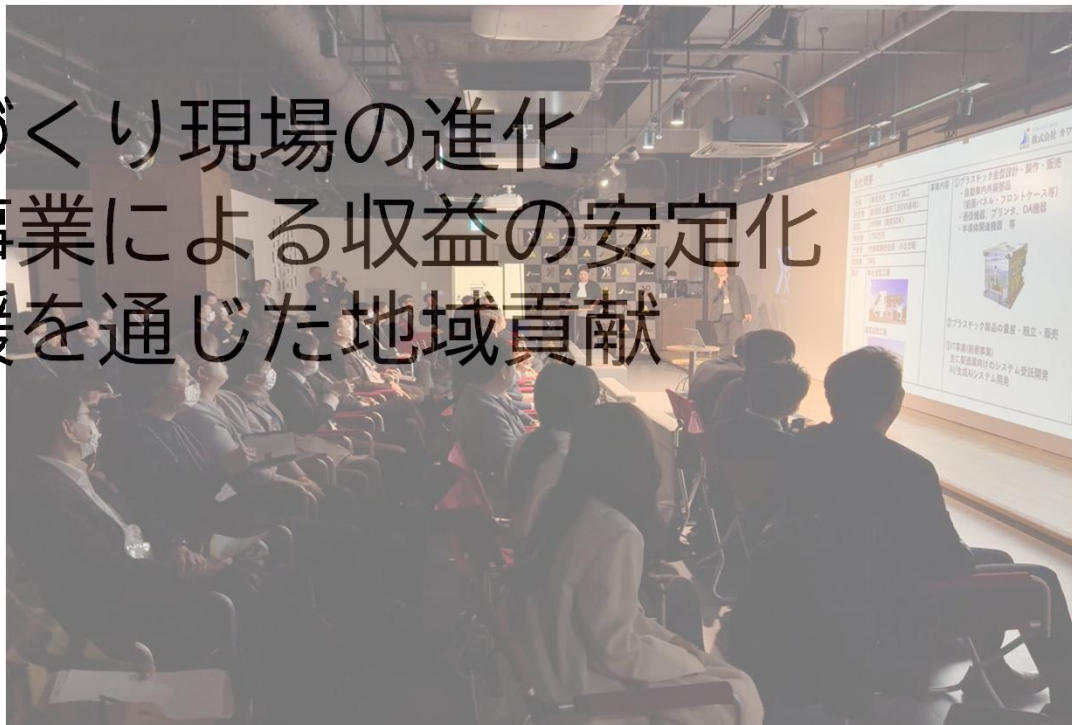
「社内にIT人材がない」「業務が属人化している」という課題に対し、社内人材におけるリスクリングによる自社システムの内製化を進める方針とした。予算が限られる中、スモールスタートで成功体験を積む土壌づくりを行った。

### 事業シナジーによる新ビジネスモデルの構築

金型事業と成長中のIT事業が社内でバラバラに動いていた現状を見直し、両事業のシナジーを活かした新サービスの検討と、営業ゼロからの受注体制構築を目指した。

## ビジョン

- ①ものづくり現場の進化
- ②新規事業による収益の安定化
- ③DX支援を通じた地域貢献



## 自社アプリ開発と見積プロセスのDX

### 取り組んだ内容について教えてください

本プログラムでは、「金型×ITで切り拓く次世代ものづくりDXプロジェクト」をテーマに、営業体制の構築と事業シナジーを生む新サービスの検討を実施しました。

### 現場主導での業務省力化と営業体制の構築

汎用ツールに頼らず、基幹システムと完全統合するために「名刺OCRアプリ」や「営業日報アプリ」を自社で開発・体制構築を進めました。また、負担となっていた見積プロセスについては、IT部門からの押し付けではなく金型部門が自らプロジェクトチームを発足。現場主導でExcelによるプロトタイプを作成し、運用を開始しました。

### 金型×ITのシナジーによる新サービスの検討

「行き場のない金型」の増加や保全需要の高まりを背景に、金型メンテナンス・修理の新規サービスを企画しました。24時間365日対応の「AIエージェント」が受付・診断(一次ヒアリング)を自動化し、職人は価値の高い修理・加工に専念する「戦略的分業」のPoC(概念実証)を実施しました。

## AIと職人の「戦略的分業」

### 事業戦略

金型製造の生産性向上と、IT事業(システム受託開発等)による新収益源の創出を両輪で進める。  
さらに、AIを活用した金型修理受付等の新サービスを展開し、お互いの強みを掛け合わせた「次世代ビジネスモデル」と営業ゼロからの受注体制を構築する。

### 組織戦略

リスクリテラシー教育を継続し、内製化の土壌づくりを推進する。  
IT部門からの押し付けではなく、製造現場が自らプロジェクトチームを発足し、スモールスタートで成功体験を積むことで、現場主導でDXが自走する体制を確立する。

## 金型×ITのシナジーで、次世代ビジネスモデルを構築

「現場主導」へ転換。  
自走する組織への大きな変化

### 現場の自走化と、新規サービスに向けた手応え

これまでのDX推進は、特定の担当者主導で行われていました。しかし今回のプロジェクトを通じて、既存の製造部門が自ら主体となってExcelの設計やシステムの運用を行うようになり、現場主導の体制へと移行できたことが最大の成果です。

また、自社開発アプリや見積DXによる業務の省力化で生まれた余力を活かし、IT事業部と連動した「金型修理受付AIエージェント」の検証など、新しいサービスの開発に着手しました。  
AIを活用したメンテナンスや修理を起点に新規顧客開拓へ繋げ、収益性のある事業基盤の確立に挑戦します。



### Message

## DXは、人と人の心をつなぐ経営戦略

人手不足や原価高騰など、金型業界が直面する厳しい環境の中で生き残るためには、DXが不可欠です。  
私たちは、最新のAIやデジタル技術を自社の事業基盤に掛け合わせることで、単なる省力化に留まらず、新しいサービスや価値を創出する挑戦を続けていきます。



専務取締役  
川合 忠実 様



<https://www.kawai-seiko.co.jp/>

INJECTION MOLD  
株式会社 カワイ精工

### ▶株式会社カワイ精工

#### 所在地

▶新潟県上越市大字三田245番地1

#### 業種

▶製造業

#### プロジェクト体制

▶株式会社カワイ精工  
・社内調整・開発：川合 様

▶株式会社Brizzy  
・コンサルティング支援：土山 様

▶株式会社第四北越銀行  
・伴走支援者：横田 様

#### DX戦略書



#### DX推進事例



#### DX戦略書

<https://ndxp.jp/case-studies/68b8cdc31f18046aa-f3bfbd0>

#### DX推進事例

<https://ndxp.jp/case-studies/698e754660ab36de72f09a09>



### 事業統括者からのコメント

長年培った「金型製造技術」に社内のITノウハウを掛け合わせた強力な取り組みです。IT任せにせず製造現場が自らツールを作り自走する体制へ変革。さらにAIと職人の「戦略的分業」で新サービスを創出する姿勢は、既存事業×DXで次世代を拓く中小製造業の好事例です。

# 「一人にしない組織力で、全社員DXへ！」 ～バックオフィスDXからフロントラインDXへ～

新潟県上越市で総合建設業や生コンクリート製造販売等を手がける同社。3社合併に伴う技術継承や人材不足の課題に対し、企業を存続・成長させる手段としてDXに着手。現場への負担を考慮してまずはバックオフィスの効率化で時間を創出し、その余力で現場(フロントライン)を支える基盤づくりを進めた。

## Transformation Points / 課題と方針

### バックオフィス起点のアプローチ

3社合併による業務の属人化等の課題に対し、いきなり現場を変えるのではなく、まずはバックオフィスの「ムリ・ムダ・ムラ」を解消。創出した時間で現場をフォローする方針とした。

### 「挑戦する社員を一人にしない」文化の醸成

新しいツールの導入等で失敗しても、周囲が必ずフォローする環境を強化。トップダウンの指針と、現場からのボトムアップの提案が両輪となる組織づくりを目指した。

## ビジョン

# 時代の変化に合わせて仲間と変革を起 こし、地域の未来をともに築く



## 現場の声をカタチにする委員会の設置

### 取り組んだ内容について教えてください

本プログラムでは、「プロジェクトDX～人にしかできない価値ある仕事に集中し、信頼を未来へつなぐ挑戦の物語～」をテーマに、社員の声を起点とした課題解決と全社員DXに向けた体制づくりを実施しました。

### ボトムアップ型DX推進体制の構築

全社員・全部署を巻き込むため、「社員の声をカタチにする委員会(DX検証委員会)」を設置しました。現場での日々の業務から上がってくる課題を吸い上げ、部門横断のチームで解決策を検討・実行するプロセスを構築。委員会活動が円滑に進むよう心理的安全性セミナー等も実施し、社員が自発的に意見を出せる環境を整えました。

### 成功体験の横展開と現場への定着

先行して取り組んだバックオフィス業務のDX(RPAやアプリによる自動化等)で得た成功体験や創出した時間を活かし、現場の日報や申請書類のデジタル化を進めました。現場の社員を導入検討の段階から巻き込み、「どうしたら使いやすいか」を一緒に考えることで、現場での実運用と定着を図りました。

## バックオフィスから 現場(フロントライン)へ

### 事業戦略

バックオフィスのDX(アプリ・RPA・LookerStudio導入等)で定型業務を効率化。創出した時間を現場のフォロー体制強化に充て、日報のデジタル化やオンライン会議体制の整備など、現場(フロントライン)のDXを実現し、事業基盤を強化する。

### 組織戦略

社長自らが生成AIを活用する姿を示すトップダウンと、現場社員の声を吸い上げるボトムアップの両輪でDXを推進。新しい挑戦での失敗を周囲がフォローする「挑戦する社員を一人にしない」文化を根付かせ、自律的に改善を続ける組織を目指す。

## 「挑戦する社員を一人にしない」組織づくり

現場から役員会へ。  
ボトムアップの提案が生まれる組織への進化

### 部門の壁を越えた課題解決と文化の定着

委員会活動を通じて、部門を越えて会社の課題と向き合う時間を創出することができました。目指すべき姿と現状を洗い出し、課題に対して「どのように解決策を実現していくか」を社員自らが考える文化が根付き始めました。

現場を巻き込んだ取り組みの結果、社員から役員会へボトムアップでの提案が上がるようになり、経営層と現場が一体となった変革が進んでいます。現在では「従来のやり方に固執せず、新しい仕組みを提案する」など、日常的に自分たちの働き方をより良くしていく、機運が社内全体で高まっています。



### Message

## 現場発の改善を日常にし、変革を当たり前

3社合併という背景をもつ当社において、部門横断チームによる改善活動は、組織の壁を越えた対話と成功体験の共有を生み出しました。現場で磨かれた課題解決力を活かし、将来的なAIやデータ利活用による圧倒的な業務効率化へと昇華させ、全社一丸のトランスフォーメーションを実現していきます。



代表取締役社長  
三原田 誠 様



<https://miharada.co.jp/>



株式会社三原田組

所在地

▶ 新潟県上越市清里区寺脇777-1

業種

▶ 建設業

プロジェクト体制

▶ 株式会社三原田組  
・意思決定・社内調整：  
・三原田 誠 様  
・三原田 逸美 様

▶ 株式会社BSNアイネット  
・推進支援者：坂田 様

▶ 株式会社第四北越銀行  
・伴走支援者：長浜 様

DX戦略書



DX推進事例



DX戦略書

<https://ndxp.jp/case-studies/68ab7e93c9af91f04d572830>

DX推進事例

<https://ndxp.jp/case-studies/698e841560ab36de72f10866>



### 事業統括者からのコメント

3社合併という変革期に「挑戦する社員を一人にしない」と掲げ、ボトムアップ型DXを見事に推進されています。バックオフィスの確実な効率化から現場へ波及させるアプローチと、社員の声を吸い上げる委員会の仕組みは、組織風土の変革を目指す多くの企業の参考になる好事例です。

# 「仕事をちょっぴり楽にしたい」 ～若手が主導するDX自走化への挑戦～

江戸嘉永年間の創業から170年余り、「ふるさとの守り人」として地域の暮らしを支える新潟県加茂市・田上町の総合建設会社。人口減少や人手不足の課題に対し、「小さくてもDX先進の企業」を目指し着手。現場の紙書類の削減や「仕事をちょっぴり楽にしたい」という等身大の改善から、若手中心のボトムアップでDXを推進した。

## Transformation Points / 課題と方針

### 「仕事をちょっぴり楽にする」ためのDX

現場の管理業務が書面で行われ、書類間の転記(2度手間)が現場と総務の双方の負担となっていた。紙をなくし、属人化から仕組み化へと仕事のやり方を変え、負担を減らす方針とした。

### 若手中心の「スモール・スマート企業DX」

「やってもいいんだ!」というマインドを醸成し、若手が積極的に動く環境を構築。現場と総務の対話を密にし、小さな成功体験を積み重ねながら自走する組織づくりを目指した。

## ビジョン

# ふるさとの未来をつなぐDX



## 現場と総務の「2度手間」 の洗い出しと可視化

## kintoneを活用した現場DXの実装

### 取り組んだ内容について教えてください

本プログラムでは、「現場改善PJの実装：若手女性中心の小さく始める企業DX」をテーマに、現場と本社事務部門が連携した業務改革体制の構築を実施しました。

### 業務の整理とプロトタイプを作成

書類間の情報転記が多く負担となっていた課題に対し、現場と総務の双方からヒアリングを行い、現行の業務フローと情報の所在を洗い出しました。その後、伴走支援パートナーと連携し、「現場担当者登録・管理ツール」のプロトタイプ(試行版)を作成。デモンストレーションを通じて現場目線での改良点を協議しました。

### 現場実証から社内全体への定着へ

作成したツールを現場で実証し、データ活用型業務フローの土台を固めました。ミーティング日報や安全書類をkintoneに組み込み、小規模な工事から段階的に横展開。現場と本社をクラウドでつなぎ情報を一元管理することで、「紙前提」の運用を廃止し、業務効率化の時間が可視化される仕組みを実現しました。

### 事業戦略

「現場のクラウド化・技能継承DX」「空き家再生事業等」「デジタル基盤構築」の3本柱を相互連携させ、地域課題の解決と自社の収益化を両立する循環型DXを実現する。現場書類のクラウド化で承認時間を削減し、熟練の判断や段取りを動画化して技能習得を早期化。生まれた余力を空き家再生事業や地域名産の製造販売等の新規事業へ振り向ける。

### 組織戦略

代表直轄のDX推進室のもと、現場から管理部門までデータで連結する。若手や女性技術者、シニア人材が活躍できるよう、作業の効率化と技能の動画・文章化を進め、持続的な採用力・組織力を強化する。全社員対象のリスキングを通じ、「やってもいいんだ！」という改善マインドが自走する環境を整える。

## 「ふるさとの守り人」として地域の未来をつなぐ

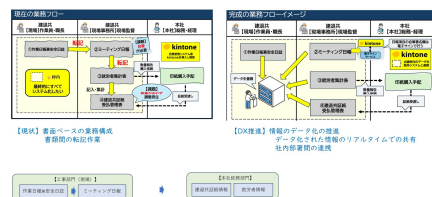
若手が自走する組織へ。  
現場と総務の壁を越えた業務改革

### 「やってもいいんだ！」という思考の変化と今後の挑戦

これまでは現場の管理業務が書面ベースで行われており、現場と本社間で多くの転記作業が発生していました。しかし、委員会活動を通じて総務と現業のミーティングが密になり、改善活動において「やってもいいんだ！」というマインドが芽生えました。

若手社員が積極的に動きkintoneへの落とし込みを主導するなど、自走する文化が定着したことが大きな成果です。今後は現場の安全書類にAIを組み込み、書類作成のさらなる省力化や、AIを活用した若手の育成にも挑戦していきます。

「紙を無くす」からの「仕事をちょっぴり楽にしたい」



### Message

## 負担を軽く、学びを濃く。小さくてもDX先進の建設会社へ

私たちのDXは自社だけで実現できるものではなく、地域住民の皆さま、自治体、企業、教育機関など、さまざまな方々の協力があってこそ成り立ちます。

人口減少・人手不足という課題を「人と人をつなぐ可能性」に変え、こどもたちが誇れるふるさとを共に創り上げていきます。



代表取締役社長  
堀内大祐 様



<https://horiuchigumi.com/>



### ▶ 株式会社堀内組

### 所在地

▶ 新潟県南蒲原郡田上町大字川船河甲1059番地1

### 業種

▶ 建設業

### プロジェクト体制

- ▶ 株式会社堀内組
  - ・戦略構築：堀内 様
  - ・改革施策の整理：
    - ・小林 様、塚野 様、今井 様
- ▶ 奏風システムズ株式会社
  - ・改革施策の整理・アプリ作成：
    - ・田中 様、齋藤 様、高橋 様
- ▶ 三条信用金庫
  - ・伴走支援者：岩方 様

### DX戦略書



### DX推進事例



### DX戦略書

<https://ndxp.jp/case-studies/68aec6865c9f7f7bc9f9a169>

### DX推進事例

<https://ndxp.jp/case-studies/699122fa89cb1feb747379a>



### 事業統括者からのコメント

創業170年を超える地域密着の建設会社が、若手を中心としたボトムアップで「仕事をちょっぴり楽に」という身近な課題からDXを自走させている好事例です。現場と本社の対話を促し、既存事業の強化から新規事業へと広げる姿は、多くの地域企業のモデルケースとなります。

# 「DXの主語は私たちへ」 ～スキルマップ構築から始まる全社変革と人材成長～

1943年創業、新潟県見附市のプラスチック製品メーカー。80年培った技術を強みに「スマートファクトリー」への変革を掲げる。DX推進における「人材定義の不在」と「社内浸透不足」という課題に対し、全社員を巻き込むスキルマップ構築と社内広報を実施し、組織風土の変革を目指した。

## Transformation Points / 課題と方針

### DX人材の定義とスキルマップ構築

DX人材育成の目標や基準が不明確だった課題に対し、階層別のDXスキルマップ(基礎リテラシーからデータ活用まで)を策定し、具体的な研修設計へと繋げた。

### 「一部の人間」から「全社員」への浸透

DXの取り組みが社内に浸透していない課題に対し、社内報の発行や小グループセミナーを通じて、全社員を巻き込むプロジェクト感を演出する方針とした。

## ビジョン

# “スマートファクトリー”へ変革する



現場と総務の「2度手間」  
の洗い出しと可視化

kintoneを活用した現場DXの実装

### 取り組んだ内容について教えてください

本プログラムでは、「DXの主語は私たちへ全社変革と人材成長」というテーマのもと、自社におけるDX人材の定義化とスキルマップの構築、ならびにその取り組みを社内へ浸透させるための仕組みづくりを推進しました。

### 階層別スキルの定義と研修設計

DX人材の育成方針を明確にするため、「基礎リテラシー」など4領域における全社共通のスキルマップを策定しました。各領域に4段階のレベルや、資格取得・実践試験といった具体的な認定基準を設定。これにより、一部の担当者だけでなく現場から間接部門まで、組織全体のデジタル力を底上げする具体的な研修プログラムへの落とし込みを実現しました。

### 全社員を巻き込むコミュニケーション

これまではDXの取り組みに対する社内浸透が不足し、営業活動による機会損失に繋がっているという課題がありました。そこで管理職会議での発信を経て、全社向け社内報(「DXって何?」等)の発行を検討。さらに10名単位の小グループセミナーを順次開催して丁寧な対話を重ね、「DXの主語を『一部の人間』から『全社員・わたしたち』へ」と転換し、全社員を巻き込む素地を作りました。

事業戦略

「現場の見える化2.0」「全社システムの統合」「デジタル人材の育成」の3本柱でDXを推進し、スマートファクトリー化を目指します。IoTでの現場データのリアルタイム可視化や、社内7システムの単一Web型システムへの統合により生産性を高め、大手顧客基準の品質と強固なトレーサビリティを有する「高付加価値型メーカー」への転換を図ります。

組織戦略

代表直轄かつ部門横断のDX推進委員会を中心に、現場と間接部門が一体となってスピーディに変革を実行する体制を構築しました。スキル評価を人事評価や採用計画に反映し、熟練技術者の暗黙知の形式知化や間接部門の属人化業務の排除を推進。一部の担当者だけでなく全社員が標準思考としてDXを習得し、「誰もが主役」となる組織風土を形成します。

# 「DXの主語は私たちへ」 全社員で創るスマートファクトリー

DXの主語を「全社員」へ。  
人づくりから始まる工場変革

継続的な委員会活動とAI活用による次なる挑戦

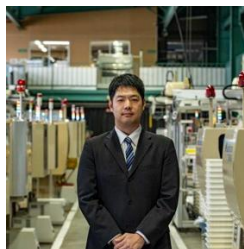
これまでDXの取り組みに対する社内浸透が不足しており、人材育成の目標も明確ではありませんでした。しかし、今回の伴走支援を通じて明確なスキルマップが構築され、社内報等を用いた丁寧な社内広報を行うことで、社員一人ひとりが「自分ごと」としてDXを捉える文化が芽生えつつあります。今後は構築したDX推進委員会を不定期に開催して活動を継続し、社内のチャレンジを後押ししていきます。また、これまでの業務支援レベルでのAI活用から一歩踏み込み、現場DXと最新AI知見を結びつけることで、さらなる生産性向上と「DXセレクション」認定への挑戦を続けていきます。

全社スキル領域	Lv1.基礎理解	Lv2.支援活用	Lv3.自立実践	Lv4.指導展開
基礎リテラシー	・当社の理念、方針DX戦略の関連性も理解できる ・数値データの基礎知識、合格	・社内作成書類の理解、合格 ・社内システムの利用、合格	・経験システムでの作業手順書の作成、合格 ・経験システムでの作業手順書の作成、合格	・経験システムでの作業手順書の作成、合格 ・経験システムでの作業手順書の作成、合格
データ活用	・Excelの基本的操作ができる ・Excelの基本的操作ができる	・Excelの基本的操作ができる ・Excelの基本的操作ができる	・Excelの基本的操作ができる ・Excelの基本的操作ができる	・Excelの基本的操作ができる ・Excelの基本的操作ができる
ツール活用	・社内システムの基本的操作ができる ・社内システムの基本的操作ができる	・社内システムの基本的操作ができる ・社内システムの基本的操作ができる	・社内システムの基本的操作ができる ・社内システムの基本的操作ができる	・社内システムの基本的操作ができる ・社内システムの基本的操作ができる
業務改善設計 (最終改善計画)	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる
組織・推進	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる
デジタル倫理	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる	・業務改善の目的と効果の理解ができる ・業務改善の目的と効果の理解ができる

Message

## 80年の技術と信頼を基に、業界トップランナーへ

これまでDXの社内浸透が課題でしたが、スキルマップや社内報の活用により、社員がDXを「自分ごと」と捉える文化が芽生えました。今後は現場DXと最新AI知見を結びつけます。単なる認定取得にとどまらず、社内変革と営業面での価値向上の両面を重視し、「DXセレクション」への挑戦を続けます。



代表取締役  
宮島 拓人 様



<https://sanko-pla.jp/>



▶ 三行合成樹脂株式会社

所在地

▶ 新潟県見附市坂井町1丁目6番5号

業種

▶ 製造業

プロジェクト体制

▶ 三行合成樹脂株式会社  
・意思決定・社内調整：宮島 様

▶ 株式会社イードア  
・スキルマップ設計：石川 様  
・浸透戦略設計：大西 様

▶ 株式会社日本政策金融公庫  
・伴走支援者：富樫 様

DX戦略書



DX推進事例



DX戦略書

<https://ndxp.jp/case-studies/69326f33fd6aa82ee2f0d28d>

DX推進事例

<https://ndxp.jp/case-studies/698e87c660ab36de72f12be9>



事業統括者からのコメント

DXセレクションで高く評価される「人材・企業文化の変革」を体現した好事例です。スキルマップの体系化と丁寧な全社浸透により、「DXの自分ごと化」を見事に実現。人づくりを基盤としたスマートファクトリーへの挑戦は、セレクション認定に向けた確かな強みとなります。

